

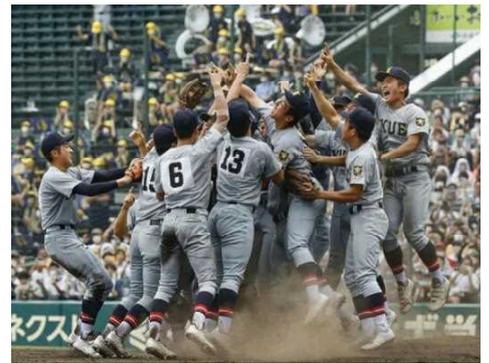


## 第2学期始業式(9/1)～『学力向上の秋』にしましょう～

今回も始業式はリモートで実施いたしました。学校長式辞では、夏の甲子園で初優勝を飾りました仙台育英高校の須江監督がインタビューの最後に締めくくった言葉を引用させていただきました。全文を紹介いたします。「入学どころか、多分おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて、高校生活っていうのは何て言うか、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんですね。青春ってすごく密なので。でも、そういうことは全部駄目だ、駄目だと言われて、活動をしていてもどこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当に諦めないでやってくれたこと。でも、それをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、やっぱり全国の高校生みんなが、本当によくやってくれて、例えば、今日の下関国際さんもそうですけど、大阪桐蔭さんとか、そういう目標になるチームがあったから、どんな時でも諦めないで、暗い中でも走っていったので、本当に全ての高校生の努力のたまものが、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらと思います。」

おそらく中学3年生にとっても当てはまることではないかと思えます。そこで、「3年生には進路実現という『自分自身の頂点』を目指して頑張ってもらいたいし、教職員はもちろん、1・2年生も共に3年生を応援していきましょう。」とお伝えしました。

この秋は、受験を控えた3年生にとっては「学力向上の秋」になります。3年生だけでなく、全校でそういった雰囲気を作るためにも、1・2年生の取組も大切であることから、学校だより8月号にも掲載しました家庭学習時間について振り返りました。学習時間だけでなく、集中して取り組むために、「無理のない計画で効率よく」「学習環境を整える」の2点について具体例を挙げて説明しましたので、お子様の学力が、この秋にぐんぐんと伸びますよう、ご家庭のご協力もお願いいたします。



## PTA奉仕作業(8/7)



暑い中、朝早くから多くの保護者の皆様にご協力いただきまして実施することができました。自然豊かなのが本校の良さの一つでもあります。が、どんどん伸びてきてしまう雑草には本当に苦労していますので、大変助かりました。

## PTAリサイクル(8/21)

各自治会や保護者の皆様にご協力をいただきまして、3年ぶりに実施することができました。3年生にとっても初めての経験になりますし、初めて参加する保護者の方も多く不安でしたが、車出しをしていただいたり、念入りに準備をしていただいたりなど、滞りなく無事終了いたしました。

今回は、運搬等の負担軽減のため、回収物の種類を減らしましたが、原材料等の高騰もあり、多くの収入を得ることができました。大変ありがとうございました。





# 栃木県総合体育大会 (7/25~30)

【ハンドボール部】第3位  
 1回戦 22-16(vs東陽)  
 準決勝 19-28(vs野木)



【卓球部】  
 団体 1回戦 1-3(vs芳賀)  
 シングルス ○○○○ ベスト32  
 ○○○○ 1回戦敗退  
 ダブルス ○○○○・○○○○ ベスト32  
 ○○○○・○○○○ 1回戦敗退



【バドミントン部】  
 シングルス  
 ○○○○  
 第3位



【男子バレーボール部】 1回戦敗退 0-2(vs佐野北)



次回は、10/13~15の地区新人大会です。

吹中生 Fight!



H's eye

## with⇔コロナ~これからも続く感染対策~

8月25日現在、新型コロナウイルスの感染者は、日本全国で総計1801万9685人となりました。第7波を迎え、感染者数は高止まりが続き、病床もひっ迫状態となっています。

社会生活をもうこれ以上ストップさせられないということで、withコロナ時代として新しい生活様式が求められています。本年度、栃木市では、国からの補助金を活用し、学校保健特別対策事業補助金を全校に配分しました。本校では、その補助金を活用し、サーマルカメラやスリッパ殺菌庫を正面玄関に設置し、アクリル板50枚を職員室に設置したり、教室での面談等で活用したりしています。

私は本校に赴任した際に、吹上中に幸せを呼ぶようにと、多幸の木「ガジュマル」を購入し、校長室で育てています。この夏休みに出かけた際にも、お店で目にした吹上カラーの「高崎だるま」も購入して置きました。生徒たちの夢や目標が叶ってくれたらという思いからです。

さて、どんなに素晴らしい機械を購入しても、アクリル板を設置しても、私のように願掛けをしても、そんな簡単にコロナの感染を防げるものではありません。つい先日は、岸田総理まで新型コロナウイルスに感染しました。おそらく日本最高峰の対策をしていたはずですが、そう考えると、一番大切になってくるのは、一人一人の意識、感染対策なのだと思います。「withコロナ」はコロナと寄り添って生活するのではなく、コロナが同じ空間に存在することを常に意識して、一定の距離を保って生活することだと思います。皆さん一人一人に幸せを呼ぶためにも、これからも一人一人が意識して、更なる感染対策を講じながら、今後の学校生活を送らせたいと思います。

